

# 小田原市スポーツ推進審議会 令和5年度第2回審議会 議事録

- 1 日 時：令和6年1月18日（木）14時から
- 2 会 場：小田原市総合文化体育館・小田原アリーナ 大会議室
- 3 出席委員：江島会長、鈴木副会長、高田委員、市川委員、吉田委員、  
上原委員、上野委員、野田委員、佐藤委員、片山委員
- 4 欠席委員：立川委員、江原委員（代理出席）、齊藤委員、飯岡委員、五十嵐委員
- 5 事務局：小澤文化部スポーツまちづくり担当部長、穂谷野スポーツ課長、  
瀬戸スポーツ振興担当課長、菊池管理係長、室橋主査、酒井主任、権守主任
- 5 オブザーバー：小田原市体育協会 豊田専務理事  
株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング  
齋藤氏、川又氏
- 6 傍聴者：なし
- 7 会議の内容

小田原市スポーツ施設整備基本計画策定検討委員会について	
江島 会長	<p>スポーツイベントの参加者や数は、だいたいコロナ前の80%程度に戻った感じで、イベントもたくさん行われています。</p> <p>本日、次第にありますスポーツ施設整備基本計画については、なるべくみなさんが普段思うことを鋭く指摘していただき、また各委員にいろいろな意見を出すことにより、小田原市のスポーツそのものをどのような形で活性化させるかになると思うので、ぜひ今日は忌憚のない意見を伺って会議を進めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第に基いて進めさせていただきます。</p> <p>議題（1）の小田原市スポーツ施設整備基本計画策定検討委員会について、資料1、資料2の説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>○資料1について：</p> <p>現在策定作業を進めている小田原市スポーツ施設整備基本計画は、本年度と来年度の2カ年で計画策定をすることとしており、令和6年3月の厚生文教常任委員会で中間報告を行う予定としています。</p> <p>現在はその報告に向け、今年度3回開催した策定検討委員会の委員のご意見を踏まえながら、基本的な考え方や基本方針を実現するための実施方針などを主な内容として取りまとめてあります。</p> <p>前回、8月のスポーツ推進審議会を開催した際は、施設の課題を中心に意見交換しましたが、今回は中間報告に向けた基本方針、実施方針などの骨格を中心に議論いただければと考えています。</p> <p>今回提示している資料は、策定検討委員会の第3回会議で提示したものになりますが、掲載している写真などは確定しているものではありません。また、本審議会での資料として第3回会議で出た委員の意見も合わせて用意しているので、こちらは後ほど説明させていただきます。</p> <p>○資料2について：</p> <p>こちらは先ほどお話しした通り、12月25日に開催した小田原市スポーツ施設整備</p>

	<p>基本計画策定検討委員会の第3回会議において、資料1にある中間報告案の『7.「実施方針」』に絞って委員のみなさんの意見の要旨をまとめたものです。この中では特に「実施方針2」に関して、「する、みる、ささえる」のうち、「ささえる」ことの話が不足している。児童公園など運動施設として使える関連的な運動施設についても視野に入れるべき。障がい者の視点も必要といった意見をいただきました。また「実施方針3」に関しては、施設整備といったハード面の計画に受益者負担や健全運営・経営といったソフト面が強調されることに違和感を感じる。これからの人口減少社会では「稼ぐ」視点やイベント、大会の誘致といった視点を考えても良いのではといった意見をいただきました。資料2には記載していませんが、中間報告案を委員のみなさまに提示した際、ではこの計画によって市民がどうなるのか、将来像が見えてこないといった意見をいただきました。作成している我々も、ハード、ソフトの両方を目指すものは、生涯スポーツ社会の実現と考えていましたが、やはりどこか抽象的で分かりにくいと考えています。</p> <p>そこで誰もが気軽に安心してスポーツに利用できる場ができたことにより、生涯に渡ってスポーツに楽しめる社会が実現された際には、気軽なスポーツを含めてスポーツ人口が大幅に増加していたり、市民の健康が増進されている。スポーツを「する、みる、ささえる」人の中でコミュニケーションが高まっている。スポーツによって地域が活性化されている、競技力が向上されているといった未来が描かれるのではというイメージは持っています。ここは本計画のメインとなるところなので、どのような表現をすれば良いのか、市民のみなさんにも未来の姿をイメージしてもらえるのか、ぜひとも意見をいただきたいと思っています。</p> <p>この中間報告案は最初に話した通り、議会へ報告するとともに市のホームページで公表する予定で、広く市民の目に触れることになるため、市民に計画の意図を正しく理解してもらうため、分かりやすい内容にしていきたいと思うので、本日はさまざまな観点からご意見を賜りたいと思います。資料の説明は以上です。</p>
江島 会長	<p>ありがとうございます。説明のあったスポーツ施設整備、基本計画、中間報告案を中心に意見を聞きたいと思います。ボリュームがあるので、気がついたところからで構わないので意見のある方は挙手をしていただければと思います。</p>
片山 委員	<p>今はテレビや新聞を見るといろいろなスポーツがある。そのスポーツに対して小田原市ではこれだけの施設があって、それをそのスポーツにあてるような、例えば城山競技場を陸上競技だけでなく、ラグビーなどもう3~4種類でその施設を使わないと、今のスポーツは多様化しているから間に合わないと思う。そこを拾ってみて欲しい。</p>
江島 会長	<p>片山委員から、今はスポーツの多様化があるので、そういうことも考えていく必要があるのではという意見ですが、関連するような何かございますか。事務局から今の意見に何かありますか。</p>
事務局	<p>すべての施設というわけではないが、例えば小田原アリーナも、今はバレー、バスケット、バドミントン、卓球、フットサルなどに対応していますが、他のスポーツに対しては、設備が整っていないところもあります。小田原アリーナの設備等に手を加えることでもう少し種目の幅が広がることも、可能性としてあると考えています。</p>
江島 会長	<p>ありがとうございます。またそういう意見があれば出していただけたらと思います。他にいかがでしょうか。中間案の中でここが表現的によく分からない、ここは何を意味しているのか等で結構ですので、どんどん出していただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>意見がなければ、私から事務局へ質問させていただきたい。この中間案の施設の整備基本計画を作る中で、第1回目の時にもこの箇所でも話し合いしましたが、コロナ以前とコロナ後のスポーツに対するみなさんの考え方や、実施について若干の変化が見られるだろうと思います。いわゆるコロナ以前はどちらかというと体育会系的な勝利至上主義的な形のが主だったと思いますが、コロナを経験して結局、みなさんが健康とスポーツを一緒に考え、またコロナ以降は働き方そのもののがかなり変わってきている面もあるので、そういう中でのスポーツ、健康についての捉え方、それに関わる自</p>

	<p>身の考え方、実施の仕方が変わってきていると思います。そういうことでまず現時点で結構ですので、事務局がスポーツに対してどんな考えを持っているのか、どう捉えて将来的に何を発展させようとしているのかを伺い、それからみなさんの意見を聞きたいと思いますが、いかがですか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。大きな話だと思いますが、コロナ禍を経て、例えば、城下町おだわらツーデーマーチも、コロナ禍前の人数は集まりません。これは本大会だけの話ではなくて、全国的に同規模のウォーキング大会の参加者は減っています。</p> <p>ただ、その中でも、会長がおっしゃったように健康については関心度がとても高くなっていると思うので、そこはギャップが生じていると感じています。</p> <p>スポーツについては、スポーツ振興指針の中で「する」、「みる」、「ささえる」の三つの大きなテーマがあるので、「する」ではスポーツをする人のために施設整備していくのは当然、必要と思うし、やるべきだと考えています。</p> <p>最近「みる」視点が多く加わっているので、いかに楽しくスポーツを見てもらえるか。例えば最近応援したくなる色んな「推し」がありますよね。そういった意味でもスポーツを通じて他の人が活躍することで自分が元気をもらうこともある。「ささえる」が我々としては大事だと思っていて、スポーツ審議委員や体育振興会など、地道な活動をつづけられる方や学校もそうですし、さまざまな方がスポーツに対して下支えをしてくださっている。</p> <p>そういった方々にとっても、この計画をして施設を作っていくのが単なる一つの施設整備計画ではなく、ソフト的な考え方もこの中に盛り込んでいかなければと思っています。言葉不足ですが、大きい角度でこの計画づくりをしていきたいと思っています。</p> <p>その中で将来的にどういうものがあるかという、生涯スポーツ社会の実現と先ほどスポーツ課長が言っていましたが、やや抽象的なのもう少しグレードダウンして、まずはスポーツをすることで健康増進を図っていき、スポーツ人口も当然増やしていきたい、それから競技レベルも上げていく必要もある。それからスポーツをやることでコミュニティが形成できるのではないかと。今まで以上にやるやり方何があるか、あとはもちろんそれらを通じて地域の活性化、経済活性化も含めた地域の活性化ができないかという思いを持っていますので、そのあたり全部まとめた計画作りをしていきたいと思っています。</p> <p>なので、今日来ていただいている方々に、どんなことでも結構ですので、こういった視点が入ると良いというのをいただければ、我々もどんどん盛り込んでいきたいと思っていますので、ぜひ参考になるような意見をいただければと思います。</p>
江島会長	<p>そうすると、ある意味、スポーツ施設整備基本計画という名称が悪いな。</p> <p>もっと違った名称でないと、みんな誤解するよね。施設作るのかという感じになりますけど、今の話だとちょっと違ってくるんじゃないかなと思いますけど。</p>
事務局	<p>基本は整備計画ですが、それだけではないという。</p>
江島会長	<p>それは説明を聞けば分かるけど、大体において見た目が8割なので、人間というのは最初のタイトルだけ見てこうだからと思っちゃう。そうするとそれでいいのかということにならないと。みなさんに気楽な形で話してもらったらいのですが、いかがでしょうか。</p>
鈴木副会長	<p>よろしいでしょうか。今、会長が言われました、どこの自治体もだと思いますが、この施設計画という形があって市民のみなさんは施設が足りない等いろいろなことを言うと思います。</p> <p>私は現在、神奈川県障害者スポーツ協会の会長で、今のスポーツの、「するスポーツ、みるスポーツ、ささえるスポーツ」という、スポーツの局面を捉えたと思いますが、本当にこの施設整備の運営のところ、例えば「みんなにスポーツ、みんなでスポーツ…」などそういう言葉をちょっと入れておけば、そのための施設整備だということで柔くなるのではと、江島会長のご意見等を含めて。</p> <p>これで見ると施設整備をどうするか一気に言っちゃうので、こういうところに「みんなにスポーツ、みんなでスポーツ、みんなのスポーツ」ではないんですよね。「みん</p>

	<p>なのスポーツ」は種目を柔らかいスポーツに捉えていくんです。</p> <p>行政は、障がいであろうと、お年寄りだろうと、みんなにスポーツをどう提供していったらいいか、そのための施設整備も考えればここにひらがなで大きな字で「みんなにスポーツ、みんなでスポーツ…」みたいものを入れれば、その中での施設整備だとすればちょっと変わるのかなと。</p> <p>「する、みる、ささえる」というのもどこでもスポーツの局面を捉えていると思いますが、それでも解決しないと思うんですね。それは分かっている。けどももっとスポーツを柔らかく、みんなにスポーツを提供する、コミュニティを作るならみんなでスポーツという、そんな考え方も一つできるのかなということ、会長のお話を伺って考えました。</p>
片山 委員	<p>どうしても「スポーツ施設整備基本計画」という名称になってしまうのではないかと。これに補足で会長が言われたように何か柔らかく言うような感じですか。</p>
江島 会長	<p>結局タイトルが変わらないのであれば、それそのものの説明をどうしたらきちんとしていけるか。例えば体系、目的の中でも生涯スポーツ社会というのが出てきますが、生涯スポーツ社会というのは何かを言っていますか。生涯スポーツ社会というのは、背景みたいなものが分かっているようで分からない、どういうことなのか、先ほど私が聞いたのは、スポーツをどう考えますかというのは、スポーツによってこの小田原市をどうしたいのか、スポーツを関わらせることによって小田原市をどうしていくのかということですか。</p> <p>もちろんエリートスポーツがあって、日本一、世界一を目指そうという方々もいますし、そうではなく日常の中でちょっと体を動かしてみたいという方もいます。いろいろな方がスポーツに関わってきますが、小田原市はスポーツによって何を指すのかということが先ほどの説明や何かからはあまりよく分からない。今までのスポーツは、どちらかといえば試合のためのスポーツ、大会のためのスポーツで、ですからたとえば学校の施設や何かですね、その大会、試合に出るための練習の場という形で体育館でやる、運動場が使われるというのは実情だろうと。そういうものを目指していくのか、ではなくて要するにこれからの健康といったものを加えながら、またはコミュニティという話もありましたけど、そんな文句を加えながら考えていこうということになれば、実際、スポーツによって生活を豊かにしていくということだと思えますね。そうすると、すべての人がいろいろなことに関わると、支えるのもこれスポーツによって生活を豊かにする一部ですから、そういうことも考えていくと、この後、文面の言葉ももっと吟味するといいいかなと思いました。いかがでしょうか。気楽にお話ください。</p>
佐藤 委員	<p>立場的に「する」スポーツと「みる」と「ささえる」とまんべんなく関わっているような考えなので、「見る」のところでもと会長がおっしゃっていたようにコロナの時とコロナ明けてこの年度は、入場者数はあまり変わっておらず、どちらかというところと微減なんですよね。去年、小田原アリーナを中心に開催した11試合で15,000人くらい来場者数があって、今年は14,000人くらいなので、平均が大体1,500から1,400ですが、熱量が減っているというような印象はなく、むしろ新しい層が結構入ってきているなと思っていて、一方で集客しなければいけない立場なので分析すると、やはりいろいろな催事やイベントが街中に復活してきたので、週末も時間の取り合いとか、選択肢がとて多いから一事業者としては努力しなきゃいけないと思いますけど、市民、住民の方たちにとっては選択肢が増えているのでいいことかなという分析が一方です。</p> <p>「ささえる」方に関しては、僕がたまたまこういっていわゆるトップスポーツクラブみたいなものに携わっているので、応援してくださいとならないよう言い方に気をつけて言いますが、他の行政や特に地方自治などで地域の人たちの心をつなげるような、最近の言葉でいうシビックプライドを醸成するのにやはりスポーツコンテンツだろうという見方が非常に多い。あらゆる世代の人たちや、スポーツができる・できないとしても、応援や下支えは可能なので、そこで何かみんなの共通項を作っていくということで、行政施策の真ん中に新しく入れてくるところが最近結構多いで</p>

	<p>す。恐らくそれがだんだん川下に行く、そういったスポーツクラブが活動しやすい、多くの人たちが集まった時に収容できる施設はどういったものかというところから施設整備の方法・手段につながっていくかと思っています。どうしても「する」がフューチャーされやすいスポーツで、僕らもいろいろな説明をしますが、体育会系というとやっぱり「する」か「しない」かなので、スポーツにはいろいろな携わり方があるということ、この委員会や施設整備計画とは別軸で、同時並行で一般市民の方たちに説明があってもいいのかなと。</p> <p>もう一つ、スポーツツーリズム的なことも少しやりかけていますが、特に神奈川県西で見るとやはりこの地域一体なんですよ。サッカーグラウンド一つとっても、小田原市にあるかどうかより、大きく捉えるとこの地域で幾つあるかの話になってくるので、どういった施設整備が必要かの判断材料となった時、近隣にどんなものがあるかもひと目で分かるととても分かりやすい。専門領域のグラウンドなどはよく分かっているが、別の競技の施設がどうなっているかは僕はよく分かっていないので。以上です。</p>
江島 会長	ありがとうございます。佐藤委員さんからの話題に関連した意見は他にありますか。
高田 委員	<p>一つだけ。私は学校教育の方で小学校を担当していますが、小学生の学校教育の中では「体育」という授業と、「運動」という言葉が使われていて、「スポーツ」という言葉はあまり使われていません。定義は決してそうではないですが、結果として「体育」とか「運動」は手段として扱われがち。つまり子どもたちに体育を通してこういう身体に育てるとか、人として成長させるとか、「体育」も「運動」もあくまで手段化されてしまって、でも本来そうではなく、教科の目的の中にはその運動が持つそのものの良さや楽しさ、面白さ、種目ごとの良さというものがあって、運動の楽しさを味わっていくことがそのスポーツとの出会いにつながっていくのかなと思いますけど、でもやはり多くの教員は「体育」や「運動」を通して違う目的がそこにあるような気がしているので、そうすると子どもたちは楽しくないですね。やっぱり体を鍛えなきゃいけない、仲良くしなきゃ、チームワークをこうしなきゃ、こういう競争しなきゃいけない。生涯につながっていくことを、やはり教員は考えなければいけないなと思っています。だから「スポーツ」はとてもいい言葉だなと思って。先ほど会長がおっしゃられた通り、スポーツは自分の生活を豊かにする生活の営みの中にあるもの、「スポーツ文化」という言葉の通り「文化」なので、やっぱり自分の生活を良くしていく時に、自分の生活の1日なのか1週間の中なのか分かりませんが、スポーツをどこに位置付けていこうか、それがあって自分の生活は豊かになるのではと、そういうふうな位置付けになることが良いのではと思う中で、私たち学校教育を預かっていく上ではなかなかちょっと、今、子どもたちは手段の中で運動や体育につながってしまっているのかな、そこは学校教育の課題でもあるのかなと。そうした中で今回、大谷翔平選手がグローブを3個、小田原市の学校には来週届く予定で、それはすごい反響なんですね。それは子どもたちだけでなく保護者からも。私たちが触られるのかどうか。</p> <p>そういう選手からの影響というのは、子どもたちはすごく受けるものがある、確かに大谷選手は歴史を見ても稀に見る選手なので影響が大きいのは分かりますが、子どもたちのスポーツとの出会い方ってそういうすごい強い刺激を受けて野球やろうぜっていう言葉にも影響しちゃっている、そういったところもある。ちょっと話があっちこっちしてますけど、「スポーツ」という言葉と学校教育の中の「体育」、「運動」というのはもう少しつながっていくとよい、それが学校教育の課題だと思います。以上です。</p>
鈴木 副会長	<p>体育というのは元々「スポーツ」ではなく、「種目」を主題に使っているんですよ。教育だから育てなければいけないので、育てるにはどうしたらいいか、信頼できない教育なら「スポーツ」ではなく「種目」を選んでやったらいい、それカリキュラムと言っていますが。我々が「スポーツ」というものは余暇活動の中に存在していて、教育の中に存在しているわけではないですよ。だから体育は、もともと主題にスポー</p>

	<p>ツと言われる種目を教育の目的で手段化しているわけだから、教えなきゃいけないので面白さは当然削られていくわけですよ。</p> <p>余暇活動の中なら自分の好きなものをやることで面白さがあると思います。</p> <p>スポーツを「みる」は「面白い楽しい」が圧倒的な目的なんです。けどスポーツを「する」は二つに分かれますよね。大会のために練習が楽しいかどうかではなく、強くなろう、うまくなろう。でも健康のことを考えたら、健康という目的はあっても手段としてするウォーキングの中に自分なりの楽しみを入れ込んでいく工夫がないと長続きしないですよ。自分が既に健康であればそれ選ぶ理由がないわけだから。将来のことを考えると健康維持にはそのウォーキングが必要といった時に、楽しみを見つけなければ長続きしないですよ。だから「するスポーツ」と「見るスポーツ」の中身は圧倒的に違うということを理解していかないといけない。スポーツは別に教えてもらわなくても自分で楽しめるが、「体育」は圧倒的に資格のある人間が教えないと「体育」にはならないという、「スポーツ」と「体育」の違いをしっかりと考えながら、「スポーツ」をどう捉えるかが大事だと思います。</p>
江島 会長	<p>いろいろな課題の中で「スポーツ」という言葉を使うなら、これはあくまで余暇の中でどうするかが本来の姿だが、先ほどから言っているように実際にプロの人たち、職業の人たちもいるし、それに向かって本当に辛い、苦しい練習に耐えている人たちもいる。けれど圧倒的多数は、どちらかといえば余暇を使って自分の楽しみを見出す、ある意味生活を豊かにしていこうという人たちだろうと。そういう意味でこの施設の整備計画が一体どこを目指しているのか、作っている方からそんな意見が出ているようです。結局そのために施設そのものも大きく違ってくるのではないかと思います。そんな意味で毎回この中間報告を見直す時にみなさんからいろいろな意見が出るのかと思いますが、いかがでしょうかね。</p>
上原 委員	<p>整形で高齢者がたくさん来るので、いつも診療時には「みんな運動しなさい」と言っています。厚労省も WHO も、人口の人間みんなが運動不足だから、プラス 10 分運動しなさいと言っていて、それに関しては身体活動と運動とで分けています。</p> <p>今、スポーツと運動の話がありましたが、やはり健康志向となると高齢者ではすぐスポーツ直結にはなかなかならないかと。運動の手段としてスポーツを選んで健康になりましょうねとなるので、それぞれの世代によって体を動かすことに対する言葉の意味というか、運動かスポーツか、身体活動なのかで変わってきてしまうのではと思います。この背景でそこを少し説明してもらえるような、これは「背景・目的」を読むとなんだかスポーツだけで、いきなりここに少子高齢化、健康志向みたいな取組みでくるとなんとなくピンとこない気が私はしてしまうので、その文章に少し付け加えたらいいのでは。高齢者には圧倒的的身体活動の他に、運動をさせないといけないというのが、私たちの目標というか、厚労省や WHO などの目的なので、その辺のことも少し入れていただけるとまた違うかなと。ピントが合ってなかったらごめんなさい。</p>
江島 会長	<p>他にどうですか。じゃあお願いしていいですか。</p>
市川 委員	<p>自分は中学校の方を担当していますが、スポーツや体育の話は先ほど言われた通りで、本当に体育に携わる教員たちがそういう事業をずっと展開していったら違う小田原になっていたのかなというイメージもありますけれど、それはそれでここまで来ているので、佐藤委員の言われた通り、中学校やはり市内の施設というよりも少し広いゾーンで競技をやるに当たっては、考えるということが多いので、テニスガーデンやこのアリーナをいっぱい使わせてもらっていますが、大会なんかで考えればそれだけではなく南足柄の施設を借りたり、近隣上郡や下郡の施設を借りたりという動きも当然あるんですね。そのため、同じ種目をやるに当たっても、市単独でイメージするだけではなく、もう少し広いゾーンで見てもいいのかなというのが一つ考えたところと、その施設をいろいろな調査、2 ページの上段にも調査分析をされたと書かれてありますが、ソフト面でも利用や管理運営の状況把握がされているとは思いますが、例えば他市での市民の利用状況というか、平塚のプールや南足柄のプールにどれ</p>

	<p>くらい小田原の市民が動いていっているのか、そこでニーズがもう少し広まるという整備の根拠になってくるのかなと感じました。小田原で使えないから近隣で補っている等が見えると、その整備の根拠の一つにはなるかなという思いを持っていたので、その辺はなかなか把握が難しいですが、確かにいろいろ他市に協力を求めたりで大変というのはあるのでしょうかけれども、そういうのがあると少し参考になるのかなという感じを持ったのと、コロナ禍とか個別のいろいろなニーズなどのお話が出ていますが、やはり今、プライベート活動が非常に優先されるような流れになっていて、一時前まではやや大規模なスポーツジムがダーっと小田原にも入ってきましたよね。このところは短時間で小規模なスポーツジムが増えている。ジム施設が増えてきている現状を見ると、1 ページの下にも民間スポーツ施設を関連施設として位置付けるところもあるので、そういうところも包括した中でのスポーツ施設という考え方も一つできるのかなと思っていて、それに公共施設だけでなく、市民のみなさんがどこまでスポーツ活動に携わっているのかを把握した上で、さらにこういうところに足を向けてもらうとか、「する、みる、ささえる」含めてですけれども、展開を意図するのであれば、そこに道筋を立てて施設整備の根拠にしていくなど、そんな考え方もいいのかなと少し考えました。</p>
江島 会長	<p>ありがとうございます。他に何かありますか。</p>
上野 委員	<p>資料の対象施設というのを拝見すると、ほとんどがアウトドアに関する施設で、アリーナなどの屋内でやれるものはこの1 番だけだと事実そう思って、その小田原の状況というのは、私はまったく分かりませんが、まずそこを一つのポイントでできる種目というか、第一印象としてそういうものもやはり限られてくるのかなという気がしました。話が変わりますが、私は都内に住んでいて、この1 月1 日都営公園で気軽にウォーキングというのがあって、集合するのではなくゴールが定めてあって、どこからでも来ていいですよ、隣の家でもいいんです、そこに来たらそれがゴールというような、本当に負担のないそういった企画がありました。年末に申込みがあって、先着800 人はお箸がもらえますとあって、実際は千数百人参加して家族がボランティアで景品を渡しに行ったので、ちょっと状況を聞いたら、申込むだけ申込んで来ない人もいるから、来た人にはのべつまくなしに渡していったよ、それがもし渡らなければ渡らないで、そんなに文句を言われるような品物でもなかったと、本当に気軽に考えられた企画だなと思ったので、何かそういった非常にソフトな感じのスポーツ機会みたいなものを作っていくことも必要かなと思いました。ガッチリ固めないような、誰でも気軽にできるような…ということです。二つの視点からでまったく話がつながりませんが、そういう印象を持っています。以上です。</p>
江島 会長	<p>ありがとうございます。他にいかがですか。</p>
鈴木 副会長	<p>中学校の部活の地域移行のようなことから学校体育館利用の変化はあまり視野には入れてないのですか。3 年後までには文科省がこうしようという意向を出していますがなかなか難しい問題ですが。</p>
事務局	<p>小田原市の方針として今のところ現状のものを「継続する」。ただスポーツ活動が厳しくなった部活などは、合同の部活動や拠点校、そういったものを定めていきたいと思いますという教育委員会の考え方ですので、特段ここで変わるものではないんです。</p>
江島 会長	<p>部活動の地域移行については、どう考えるかであちこちでいろいろな意見が出ているので。</p>
江島 会長	<p>他の方いかがですか。本計画は、スポーツ施設の計画ということでやっていますが、先ほどからちょっと言っているように、余暇活動としてのスポーツ、スポーツを通じたの豊かさみたいなものを目指そう、そういうようなものを前提にするのは施設だけじゃないですよ。小田原市全体この地域全部があり、スポーツ施設になり得るのです。そういう意味で例えば歩くという、ウォークということについても、道路そのものがある意味運動施設であるわけですね。歩く、ウォーキングということではスポーツの施設が道路になる。</p>

	そのところは、スポーツ施設という形の中で議論がきちんとありましたか。
事務局	そこまでの議論はないですね。若干回答がずれるかもしれませんが、スポーツを幅広い世代の方が身近なところで、何も小田原アリーナに来なくても近所の公園や学校の活用も重要な視点だと思いますので、来年度しっかりやっていかないといけないところだという認識は持っています。
江島 会長	例えば、酒匂川の堤防を歩く場合、県の管理になる。各管理者等が違うことを、どんな形で解消していくのか、色んな連携に重きを置くのも一つ重要な視点であると思っています。他にいかがですか。
吉田 委員	先ほどちらっと出ましたが、陸上競技場などは使用方法がある程度決まってしまう。でも、使用方法は決まっても、真ん中や他のスペースをもう少し自由に活用できることをもっとアピールして、例えば今ならモルック等を置いて、団体でなく個人でもできますよとか、もっと市民が気楽に来て、道具も借りて、アリーナの外の芝生や、空いていれば施設内というアピールの仕方も大事かと思います。そうすると結構やりたい子も出てくるし、公園などにも置いて利用できるのが本当はいいのでしょうけど、メンテナンス等もあるのでなかなか難しいですが、施設でできることが固定ではなく、周りも活用できるような利用の仕方があれば一番いいのかなと思っていますけど、どうでしょうか。
野田 委員	今、県立諏訪の原公園は県立なので小田原市ではないですが、そちらで月1~2回程度、私たちのクラブに指導者派遣というお話をいただいている、1時間ですが走り方教室や親子体操、エアロビクスなどやります。そうすると、そこを利用している人が、今日は何をやるんですかと問い合わせってきます。ご家族で遊びに来ている方がかなり多いので、こちらも年齢層をいろいろ入れてはいますが、やはりそうやって興味を持って集まってくださっている。あそこに行ったら何かやっているのではという、何かそんなイメージを作っていけば、だんだん競技場の利用者も増えるのではないかと思います。
江島 会長	今あった施設そのものの利用の仕方、どのようにしていこうかという、先ほどから話している通り、今までの試合・大会中心のスポーツ施設と余暇活動中心のスポーツ施設では異なる。施設の利用をどうしていくのか。非常に難しい問題かと思いますが、これから検討していく課題だと思います。他にはいかがですか。
鈴木 副会長	もう一ついいですか。 一時期、文科省からスポーツ実施率といういろいろな数値の出るものがありました。今そのことについての焦点が少し柔らかくなってきているのですか。それともまだそれを念頭に入れながらの施設整備の観念ですかね。一番最初、32.8%からスタートして44%以上とか50%以上とか、いろいろなことが出てきましたが、実施率については今はあまり考えないのですか。
事務局	数値の発表は当然されていますが、ここを目指そうというのは薄れてきているような感じがします。
鈴木 副会長	全国的にそういう風潮にあると思います。だからその時のブームで何かが動くというよりも、市民の年齢の変化もあって、今こちらで言われたように年齢によってはそこでこそ運動しなければいけない世代もあるわけですね。みんなにスポーツ、みんなスポーツの考え方からすると、スポーツ実施率も頭の隅に置いておかないといけないのかなど。やっていない人にどうしてもらえようするか、やりたい人にさらにできるようにするかの二つがあると思いますが、それで施設整備をどうするかがまた少し別の視点からも見えてくるのかと思います。
上原 委員	基本的な質問ですけど、この整備の基本計画として、いろいろ課題を上げていただいている、これをこの後ろの計画で見ると、3月なり中間報告をして、そのあと優先順位の検討と書いてありますが、この中からどこを優先に整備していくかを今後決めていくのですか。
事務局	どこからやっていくか、また建物をどこから優先的に手をかけていくか、ということこれから検討してまいります。また、例えば、建物の中の設備、例えばアリーナの場合でもトイレについて見ると、アリーナ以外の施設で洋式化が進んでいないとこ



	ろがかなりあるので、トイレを優先的にやろうとなると、アリーナだけでなくテニガーデン等も絡んでいきます。
上原委員	じゃあ例えばトイレを直しますといたら他の施設も一斉にトイレを直すことができるんですか。
事務局	その辺は予算のこともありますので、来年もありますから計画は作ってもすぐできないこともあります、そういう考えは持っていきたくないとは思いますが。
上原委員	計画の書き方だけの問題ですが、施設をたくさん挙げて、当然アリーナなどが挙がってくるとは思いますが、市民が見た時に漠然とこれを全部は絶対に無理だと思うので、それが実際可能か、ぱっと見た時にこれは直してもらえそうか、この中でどういう優先度か、1、2と振る等して、いわゆる難易度がもう少し分かりやすくなっているといいかなど。
事務局	優先順位も大方、こんな考え方を持ってというのはここで掲載させてもらいましたが、そこをもう少し分かりやすいように点数化するとか、いろいろなやり方が各自自治体でありますので、それを参考にしながら順位をつけていきたいと思えます。
江島会長	他にいかがですか 今後、基本計画を作るにあたって、基本的なところで小田原市の今後の人口動態、どのような形で考えた上で基本計画を作ろうとお考えなのか、お聞きしたい。
事務局	人口の年齢別の分布等を見ていけば、これは小田原市に限ったことではないですが、50、60、70歳くらいがぐっと増えている状況です。そこから下は下がっていて、多分あと30～40歳くらいは高齢者がとても多い時代になって、それが過ぎると年齢的にだいたい同じような感じになって、でも全体的に人口は少し減ってしまう感じになると思えます。この基本計画自体は、実は年限を切っていないのですが、5年、10年ではなくもう少し幅は広い30歳くらいかというイメージは持っています。するとさっき言ったその高齢者がたくさんいるその時代というか期間が今後非常にいろいろと懸念され、コロナ後というのももちろんありますけど、いろいろな意味で高齢者も健康に留意しないといけないので、その人たちがどうすれば運動したいと思うようになるか、これは仲間にもよると思いますが、1人ではなかなか…。ウォーキングはやると思いますが、それだけを普通にやっけて耐えている人はいますけど、あまり楽しみがないと続かないので、仲間は大事だなと思っています。そのあたりも含めてどういったことができるかをこの計画の中に少し盛り込めるかなという考えを持っています。
江島会長	スポーツ施設そのものが、やはりその市の人口動態を考慮した上でスポーツ施設を考えていくことが基本だろうと思うので、その将来見通しがあるのこういう施設を優先にして整備していこう、作っていこうと、こういうものを作るんだと。その辺も含め、そのように書いているかもしれないが、またどこかに入れてもらえればありがたいなと思えます。 他にいいですか。これで私の方は最後にしたいと思えますが、1番にある「背景・目的」の中にいろいろな形で「誰もがそれぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも主体的にスポーツに親しむ」と書いてあります。生涯スポーツ社会ですが、生涯スポーツ社会というのはさっき言ったように非常に曖昧で、何を示しているのか分からないので、これを変えてもらえると。その前に、「いつまでも主体的にスポーツに親しむ」と書いてあって、この「主体的に」というのはどういう意味を持たせた「主体的」なのかということをお聞きしたいと思えます。
事務局	そこはさっきお話した中に入っているのですが、気が向かないとなかなかスポーツができない人もいますね。好きで好きでしようがない人はいいですけど、そうではなく健康のための一つのアクションにスポーツを取り入れてもらえればと思っているところで、それを主体的に、要するに自分がスポーツやりたいと思える。スポーツなのか運動か分かりませんが、何しろ自分で健康維持のために動きたいと思えるような取り組みです。だからさっき、そのあたりをこの計画の中に盛り込みたいと話したんですけど、それが「主体的な」という表現でさせてもらっています。
江島	そういう解釈で主体的っていう、そのような形で使っていただいたらと思えます

会長	<p>が、いろいろな方の中で主体的にというと、どうしてもこうっていう風なのは。さっきもそうですけど、スポーツやコミュニティ、要するに仲間みたいなものをどう作っていかうかということで大きな意味を持っていくと思いますので、その辺のところも含めて少し表現を磨いていただけるとありがたいなと思います。よろしいですか、他の方。このことについて。</p>
佐藤委員	<p>一つ補足。  いろいろなお話を聞いていて学びもありましたが、施設の整備とそれを活用して回す人がワンセットになっていないと厳しいのかな、それが答えかなと思っていて。先ほど、気軽にと言っても道具だけを置いておいてもなかなかそれを借りていくのは難しく、そこで主催している方々が大車輪の活躍をして呼び込むようなことが多分必要になってきて、我々がやっているフットサルという競技もやっている人が結構いて、民間のフットサルコートを経営にちょっと携わっていて、すでに完成している団体がただ単純に借りにくる件数はものすごく少ないんですね。こっちに呼び込んで何か企画して、みんなでやりませんかというのをひたすら声かけて、来た人を楽しませて、いわゆる行政というのはこの自主事業みたいなところの役割がすごく重要で。今、他の市町村、行政などでも施設整備で新しく何かを作る、アリーナを作る、これを改修して大規模な何かを作るという時に、作って何かを誘致するという順番ではなく、確実にこの人がやりますということセットになっているケースがほとんどだと思うので、今後もしその優先順位をつける時に、作ったら来そうだなという予感だけではなくて、一方で確実にここの団体の人がもう回してくれるといいのかなと。人を集めるのは結構大変ですよね。その努力が結構必要なのと、それに紐づいて多分、受益者負担みたいな話になってきていて、なかなか言い方が難しいですけど、ただスポーツをやるという概念から、やっぱり料金を払ってやってもらうという方にシフトしていかないと難しくなっていく気もするなど。付け加えたかったのは回す人の存在です。すみません、ありがとうございました。</p>
江島会長	<p>どうもありがとうございました。他によろしいですか。それではいろいろな話が出ましたけども、以上で第一の小田原市スポーツ施設整備の計画策定検討委員会について終わりにしたいと思います。  続きまして、3番その他、「城下町おだわらツデーマーチ」について説明をさせていただきます。</p>
事務局	<p>それでは私から「城下町おだわらツデーマーチ」の開催結果について報告させていただきます。資料3をご覧ください。昨年11月18日土曜日、19日日曜日の2日間で4年振りに通常開催することができました。当日は両日とも天候に恵まれ、全国から述べ4,061人の方に参加いただきました。参加者の内訳については、資料3の4番、上段の表が2日間の参加延べ人数、下段の表が住所地別の申込み者数となっています。コロナ前に2日間で開催されていた頃よりは減ってはいますが、全国のウォーキング大会は現在どこも減っている状況で、この4,061人という数は全国的に見てもかなり多い参加人数となっているので、比較的健闘している方かと思っています。  続いて資料の2面をご覧ください。今回から特別企画として、小田原市観光協会と連携した観光ガイドウォーキング、神奈川県西地区リハビリテーション協議会と連携したユニバーサルウォークを企画しました。観光ガイドウォークについては、市外のファミリー層の方をターゲットとして3～5キロの観光ガイド付きのまち歩きを実施しました。5キロのコースについては20名の定員上限にすぐに達し、市内外から延べ555名の方に参加いただきました。ユニバーサルウォークについては、誰でも参加できるウォーキング大会を目指して、神奈川県西地区、リハビリテーション協議会の会員である理学療法士や作業療法士の協力の元、車椅子ユーザーを主な対象とした約3キロのまち歩きを実施、当日は介助者も含め、8名の方に参加いただきました。ユニバーサルウォークの当日の様子については、こちらにQRコードを載せましたので、そちらを読み取って動画で確認いただければと思います。  また最後にその他として、三の丸小学校で同時開催していたパラスポーツ体験会での参加者を記載しました。当日は99名の方に参加いただきました。以上で「城下町</p>

	おだわらツーデーマーチ」の開催結果について報告を終わります。
江島 会長	ありがとうございました。今、ツーデーマーチのことについて説明がありましたが、このことについて委員のみなさんから質問、意見があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
豊田 氏	最近スポーツイベント関係は、ただ単にスポーツする・見るだけでなく、いろいろな団体と連携して付加価値を付けていくというやり方が非常に浸透している。そういう意味でも今回のツーデーマーチについて観光や、それからインクルーシブなどといったことの優先について、各団体と連携して非常に素晴らしいなと思いました。今後こういう方向性というか、外部の団体と積極的に連携を図って素晴らしい内容にしていればなと思います。以上です。
江島 会長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。参加された感想でも。
野田 委員	参加ではないですが、三の丸小学校のプラススポーツ体験会の担当をした者としては、昨年からこれを始めて、これは福祉課の方からの依頼で我々は6種目から7種目をさせていただいていますが、みなさまのお声掛けのおかげで100人近くの方が来てくださっています。健常者でもまたこういうのも楽しいなと声が聞こえていますので、できればもっと広いところでやりたいなと考えています。
江島 会長	ありがとうございます。他にいかがですか。他部局または他企業と連携して非常に素晴らしいことですけれど、どこまで宣伝が行き渡っているか、例えば今のプラススポーツ体験会等そんなものがありますよというのをどういう形で宣伝して、先ほど呼び込んでとりましたが、どのようにやられるのですか。
事務局	事前の広報というのは、申込み用のパンフレットであったり、もちろん市の方、SNSを使った情報発信がメインになります。多分、会長や委員長の言われているのは、イベントのところにPRしたらどうかという話だと思いますが、そこは前回2,500人の定員でやってすぐに埋まってしまったので、私どももてっきりツーデーマーチというのはPRしなくても来るんだなと勝手に思い込んでいて違ったので、気をつけたいなとは思っていますが、ただやはりコロナの関係というのは否めないと思っています。やはり特にこのイベントは高齢者の方が結構多いので、他の大会を見てもその影響は大きいなと感じています。以上です。
江島 会長	みんなが知らなければ、参加者がいるといってもなかなかうまくいかないと思います。私の団体もそうですが、こんなことやっているならみんな知っているだろう…というのは違うと思うので、もう少しその辺のところの、スポーツだけでなく他のイベントもそうだと思いますけど、本当にみんなが知るための工夫がすごく大事ではないかなと。先ほど歩く人が減っているみたいな話がありましたが、このイベントでは減っていますけど、普段は歩いている人が増えていると私は思っていますので、そういうところをどう理解、解釈するかということもあると思います。その辺を含めて検討・工夫してもらえればありがたいと思います。他にいかがですか。もしよろしければ以上を持ちまして推進審議会の議題については終わりにしたいと思います。では最後に司会の方にお戻しします。どうもありがとうございました。
司会	長時間に渡りご審議くださり誠にありがとうございます。これを持ちまして令和5年度第2回小田原市スポーツ推進審議会を終了させていただきます。